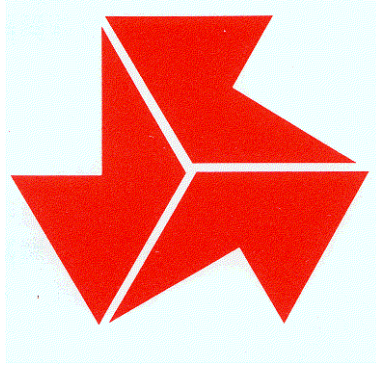


第 44 回 鹿児島県高等学校アーチェリー新人競技大会

実 施 要 項



2 0 2 6

- 期 日 令和 8 年 9 月 13 日 (日)
- 場 所 五月産業アーチェリー場
- 主 催 鹿児島県高等学校体育連盟・鹿児島県教育委員会
- 後 援 公益財団法人鹿児島県スポーツ協会・鹿児島県アーチェリー協会
- 主 管 鹿児島県高等学校体育連盟アーチェリー競技専門部

大 会 役 員

会 長	鹿児島県高等学校体育連盟	会 長	永 迫 昌 毅
副 会 長	鹿児島県高等学校体育連盟	副 会 長	紺 屋 宏 昭
副 会 長	鹿児島県高等学校体育連盟	副 会 長	兒 玉 秀 郷
副 会 長	鹿児島県高等学校体育連盟	競技専門部長	兒 玉 秀 郷
名 誉 顧 問	鹿児島県教育委員会	教 育 長	地頭所 恵
顧 問	鹿児島県教育庁	保健体育課長	山 元 尚 史
顧 問	鹿児島県総合体育センター	所 長	寺 原 和 照
顧 問	公益財団法人鹿児島県スポーツ協会	専 務 理 事	岩 元 幸 成
顧 問	鹿児島県アーチェリー協会	会 長	岩 重 礼
委 員 長	鹿児島県高等学校体育連盟	理 事 長	新 村 大 樹
副 委 員 長	鹿児島県高等学校体育連盟	アーチェリー部専門委員長	重 森 剛 幸
委 員	鹿児島県高等学校体育連盟	アーチェリー部専門委員	山 下 悠 貴
委 員	鹿児島県高等学校体育連盟	アーチェリー部専門委員	佐 野 光 俊
委 員	鹿児島県高等学校体育連盟	アーチェリー部専門委員	森久保 啓 太

競 技 役 員

総 務	鹿児島県高等学校体育連盟	アーチェリー部専門委員長	重 森 剛 幸
感染予防責任者	鹿児島県高等学校体育連盟	アーチェリー部専門委員長	重 森 剛 幸
競 技 委 員 長	鹿児島県アーチェリー協会		重 蘭 田 啓 晶
D O S	鹿児島県アーチェリー協会		中 野 尚 知
審 判 長	鹿児島県アーチェリー協会		泉 亜 美
審 判	鹿児島県アーチェリー協会		江 口 博 史
審 判	鹿児島県アーチェリー協会		永 松 拓
記 録 係	鹿児島県高体連	アーチェリー部専門委員	
補 助 員	鹿児島工業高等学校生徒	(アーチェリー部員)	

1. 期 日

- | | |
|-------------|--------------------------|
| (1) 役員会議、準備 | 令和8年9月12日(土) 15:00～17:00 |
| (2) 監督会議 | 令和8年9月13日(日) 8:30～8:45 |
| (3) 弓具検査 | 令和8年9月13日(日) 8:45～9:00 |
| (4) 開会式 | 令和8年9月13日(日) 9:00～9:10 |
| (5) 競技 | 令和8年9月13日(日) 9:15～ |
| (6) 閉会式 | 競技終了後 |

2. 会 場

五月産業アーチェリー場(鹿児島市小野町 1353)

3. 開会式・閉会式 式次第

開会式	閉会式
1 開式通告	1 閉会通告
2 役員 選手団入場	2 役員 選手団入場
3 開会宣言	3 成績発表
4 専門部長挨拶	4 表彰
5 競技上の注意	5 挨拶
6 諸連絡	6 閉会宣言
7 役員 選手団退場	

4. 競 技 規 定

2025～2026年(公社)全日本アーチェリー連盟競技規則及び大会運営規定による。

5. 競 技 方 法

(1) 70mラウンドの部

- ア 競技は、団体競技及び個人競技とする。
- イ 矢取り・得点記録は、1エンド6射ごとに行う。
得点記録は、当該標的使用選手の相互看的得点記録方式とする。
- ウ 個人競技の成績順位は、70m(36射×2回)合計72射の合計得点で決定する。得点
が同点の場合は、X数・10点数により決定する(上位大会進出に関わる場合はX数・
10点数を考慮せずシュートオフを実施)。なお、団体競技出場者は、個人成績も兼ね
るものとする。
- エ 団体競技のエントリーは4名とする。
- オ 団体競技の成績順位は、チーム内上位選手3名の個人得点の合計により決定する。得
点が同点の場合は上位3名のX数・10点数により決定する(上位大会進出に関わる場
合はX数・10点数を考慮せずシュートオフを実施)。
- カ 競技前にフリープラクティスを行う。

(2) 30mダブルラウンドの部

- ア 競技は、個人競技のみとする。
- イ 30mダブルラウンドに出場できるのは高等学校において弓歴が1年未満の者とする。
- ウ 矢取り・得点記録は、1エンド6射ごとに行う。
得点記録は、当該標的使用選手の相互看的得点記録方式とする。
- エ 個人競技の成績順位は、30m(36射×2回)合計72射の合計得点で決定する。得点

が同点の場合は、X数・10 点数により決定する(上位大会進出に関わる場合はX数・10 点数を考慮せずシュートオフを実施)する。
オ 競技前にフリープラクティスを行う。

6. 参加資格

- (1) 本年度県高体連加盟校の在学学生で1・2年生に限る。但し休学中、留学中の生徒は除く。
- (2) 年齢は平成 20(2008)年4月2日以降に生まれた者とする。但し、出場は同一競技2回までとし、同一学年での出場は1回限りとする。
- (3) 令和8年度(社)全日本アーチェリー連盟登録規定により、高等学校競技者として登録を完了し「A・J・A・F ターゲットバッジ」グリーンバッジ以上の資格を取得している者とする。
- (4) チームの編成において、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。
- (5) 複数校合同チームの参加については、本連盟が別途に定める「複数校合同チーム大会参加規定」に従う。ただし、上位大会への出場は認められない。
- (6) 転校・転籍後6ヶ月未満の者は参加を認めない。(外国人留学生もこれに準ずる)但し、一家転住等やむを得ない場合は県高体連会長の許可があればこの限りでない。(大会出場申請書を提出)
- (7) 参加する選手は、あらかじめ健康診断を受け、在学する学校長の承認を必要とする。
- (8) その他の事項については、九州新人大会要項に準ずる。
- (9) 参加資格の特例による学校(生徒)の参加については、鹿児島県高等学校新人体育大会開催基準要項の「参加資格の特例」並びに「大会参加資格の別途に定める規定」のとおりとする。
- (10) 外国人留学生の参加については、チーム出場枠内で1名まで参加を認める。

7. 参加制限

- (1) 団体競技の部
 - ア 男女とも1校2チーム以内
 - イ 1チームの人数は、監督(当該校教員)1名、選手4名、マネージャ(生徒)1名以内とする。
- (2) 個人競技の部
 - ア 70mラウンドの部男女1校各3名以内、30mダブルラウンドの部男女1校各6名以内とする。
 - イ 個人競技には、監督(当該校教員)1名の帯同は認めるがマネージャーは認めない。

8. 九州大会への出場権

令和8年度 第43回 九州高等学校アーチェリー新人大会

令和8年10月17日(土)～18日(日) 鹿児島県いちき串木野市 市来運動場

団 体 … 男女各県上位1校

開催県(鹿児島県)は、別に男女各1校を選出することができる。

個 人 … 70mラウンド男女各3名以内、30mダブルラウンド男女各3名以内

開催県(鹿児島県)は、別に70mラウンド及び30mダブルラウンド男女各3名を選出できる。

出 場 選 手

団体男子 70m R

学校名	選手名	学年	的番	前半	後半	合 計
鹿児島工業	戸川 大輝	2	1 - A			
	福留 海璃	2	2 - A			
	古谷 洸輝	2	3 - A			
	西本 昊史	2	4 - A			
串木野	中袴田 遊	2	1 - B			
	吉留 吾紳	1	2 - B			
	満園 智輝	2	3 - B			

個人男子 70m R

学校名	選手名	学年	的番	前半	後半	合 計
鹿児島玉龍	有村 蒼弥	2	1 - C			
鹿児島工業	町田 遼太	2	2 - C			

個人男子 30mW

学校名	選手名	学年	的番	前半	後半	合 計
串木野	神蘭 孝太郎	1	5 - A			
〃	香川 晴琉	1	6 - A			
鹿児島工業	河口 蓮	1	5 - B			
〃	吉原 裕翔	1	6 - B			
〃	古里 柚琉	1	7 - A			
〃	山崎 颯斗	1	7 - B			
〃	久保 侑生	1	8 - A			
〃	前本 遼誠	1	8 - B			

個人女子 70m R

学校名	選手名	学年	的番	前半	後半	合 計
鹿児島工業	山下 咲夏	2	4 - C			

個人女子 30mW

学校名	選手名	学年	的番	前半	後半	合 計
鹿児島工業	川枝 紗菜	1	8 - C			

成 績

[団体男子]

	学校名	得 点	備 考
1 位			
2 位			

[個人男子] 70 m R

	氏 名	学校名	得 点	備 考
1 位				
2 位				
3 位				

[個人女子] 70 m R

	氏 名	学校名	得 点	備 考
1 位				

[個人男子] 30 m W

	氏 名	学校名	得 点	備 考
1 位				
2 位				
3 位				

[個人女子] 30 m W

	氏 名	学校名	得 点	備 考
1 位				

ここに掲載されている氏名やその他の個人情報は、本大会の運営及び開催目的達成の為に利用されるもので、その他の目的には一切利用いたしません。